

1. 学ぶ内容

- ・地震後一週間の食べ方の工夫

2. わらい

大地震が発生すると多くの人が食料を買い込むため、スーパーなどから食料がなくなってしまう。それに加えて交通網が麻痺し支援物資として食料が届くのに1週間程度かかり、その間、自宅で食べつないでいかなければならないと言われている。そういった状況に対応するための基礎的な知識として、自宅の食料で1週間を乗り切る方法を学ぶ。

3. 授業の流れ

(準備) ① 必要に応じてスライドを印刷しておく(掲示用1枚 ※先生が使う)

② そなえチェックシート「水と食料を備える」を印刷しておく(全員に配布)

実施の流れ	内容	ポイント
導入 (3分)	災害時には「食べ物がなくなる」ということをイメージする 災害時には、普段のようにお店で食べ物を買うことができなくなるということを説明する。	<ul style="list-style-type: none">・災害時には多くの人が食べ物を買込むため、スーパーなどからすぐに食べ物がなくなってしまうことを伝える。・道路や線路などが通れなくなったり、大きな交通渋滞が発生したりし、食べ物を運ぶこともできなくなるため、1週間程度は食べ物を買ったりもらったりできない状況が続くことを伝える。 ※震災時の写真を見せると理解しやすく、有効です。
展開 (10分)	「もんだいシート」を提示する。	
	地震後1週間の食べ方の工夫について考える 3択クイズを通して、地震後1週間をどう乗り切るのかについて考えてもらう。	<ul style="list-style-type: none">・「ではこれから、地震後1週間の食べ方の工夫について考えましょう!」と伝える。・スライド(画面、もしくは印刷したものを見せる)を順番に掲示し(3択クイズ)、何番の答えが正解だと思うか、子どもたちに答えってもらう。・子どもたちから答えを聞いたら、こたえを見せる。・読み上げるだけで実施できるようストーリーを作っているため、最初から順番に内容を読み上げていく。
まとめ (2分)	おうちのそなえチェックシート「水と食料をそなえる」を配る。	
	学んだことをおさらいする 災害時の食について家族で日頃から備えておくように勧める。	<ul style="list-style-type: none">・学んだことを役立てるためには、日頃から家族で備えておくことが大事だと伝える。・家庭でどの程度の準備ができているか、チェックシートにある項目で確認して欲しいと伝える。・もし余裕があれば、おすすめの食料や道具などについて、チェックシートを読み上げる形で紹介する。